

令和5年3月1日(水)



本日、山形大学地域教育文化学部の中山祐貴准教授をお招きして、プログラミング学習の出前授業と研修会を行いました。

スクラッチ (Scratch) というプログラミングソフトを使って、猫のキャラクターが迷路から脱出するプログラムを作る目標で、3年生から6年生の全学年で学習しました。

子どもたちは、最初からタブレットを使用するのではなく、まずは動かし方をプリントに書くことから始めまし

た。中山先生からは、

「人であれば、線や文章を使うことでゴールに行けるが、コンピューターに猫を動かしてもらうには、コンピューターが分かるプログラミング言語を使う必要がある。日本語や英語があるように、プログラミング言語もたくさんある。今日使うスクラッチもその一つ。」

と子どもたちに分かりやすく教えていただきました。そして、もう一枚のプリントの四角「ブロック」の中に、コンピューターが猫を動かす4つの言葉（①1つ上のマスに動かす・②1つ下のマスに動かす・③1つ右のマスに動かす・④1つ左のマスに動かす）の中から1つだけ選んで書き、その方法が上手くできたのか確かめるために、ようやくタブレットを使用しました。

放課後の研修会で、中山先生は子どもたちへの出前授業の意図として、

「正しい手順で流れをきれいに設定しているか、確認する過程で子どもたちの理解が深まる。必要な命令の組み合わせを、試行錯誤しながら体験させることが大事。『アンブレグドプログラミング』を学習の導入で取り入れ、はじめからタブレットを使うことでわき道に逸れることを防いだ。」

ということを我々教員に説明してくださいました。

プログラミング的思考として、子どもたちが論理的に解決方法を組み立てていく力を付けられるよう、来年度も引き続き研修していきたいと思っております。

令和5年3月8日（水）



3月8日（水）の3校時に、3～5年の在校生が2名の6年生を招待して、6年生を送る会を開きました。花飾りで作った「6年生 ありがとう」のメッセージなど、賑やかな飾りつけがされたホールで、全校生の笑顔が広がり、教職員も含めて幸せな一時を過ごすことができました。

在校生が2チームに分かれて、6年生の顔のパーツを一人一人描きながら似顔絵を完成させるゲームや、6年生が好きなもの・嫌いなものをゼスチャーで伝言しながら当て

るクイズなど、これまでしたことのない交流活動に大いに盛り上がりました。

新年度の0学期として、在校生13名で「6年生に感謝の気持ちを込めて、思い出に残る会にしよう」というめあてのもと、会の内容を話し合い、係ごとに準備を進め、一つの大きな行事を成し遂げることができました。

校長の話では、今日の送る会本番での一人一人の仕事ぶりについては認めつつ、今日を迎えるに当たり、全校会議での話し合い活動はどうだったか、各係の準備に向けた話し合いはどうだったか、リハーサルや飾りつけの準備はどうだったか、振り返ってほしいと伝えました。

そして、現在の3～5年生は、令和8年度の義務教育学校設立時には、第一小、第二小、添川小出身の仲間と協力しながら、7年生～9年生として新しい学校をリードしていかなくてはならない学年だということを伝え、先生方に指導されなくとも、自分たちの力で活動できるようにもっと頑張ってもらいたいと励ましました。

来年度も、子どもたちが話し合い活動によって合意形成や意思決定を図りながら、自主的、実践的な集団活動に取り組めるよう支援していきたいと思います。

令和5年3月17日（金）



今年度も、児童会でアルミ缶回収に取り組みました。収益金は、町の福祉に役立てようと、飯豊町社会福祉協議会に寄付することになりました。そして、本日の修了式に先立ち、飯豊町社会福祉協議会長様にご来校いただき、6年生の代表児童から収益金を贈呈しました。

6年生の代表児童から、
「今年度は、10月にアルミ缶回収強化週間を行いました。手ノ子・中津川の文化祭の時に、見にきていた方へプリントを配り、地域の方々にも協力していただ

きました。そのおかげで、今年度のアルミ缶回収では、212kgのアルミ缶が集まり、30600円分のお金になりました。来年度も、今年度以上にたくさん集めて、飯豊町の役に少しでも立てるように、ご協力よろしくお願いします。」
という報告がありました。

贈呈後、飯豊町社会福祉協議会長様からは、
「昨年よりも、その前の年よりも多くの収益金を寄付していただいております。皆さんから頂いたお金は、社会福祉協議会で貯めている。お金の使い道については、地震など大きな災害時に使わせていただくと昨年度説明したが、実際に8月3日の大豪雨で被災された方々に使わせていただいた。8月3日の大豪雨の際は、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げ、全国から600名以上の活動者、200名の運営スタッフに活動していただいた。おかげさまで、91軒の泥出しや、濡れた畳・電化製品を運搬していただいた。残念ながら、地震や水害はこれからも起こるだろう。その時は、ボランティア活動で恩返しをしなくてはならない。そのために、社会福祉協議会では、500万円をボランティア活動資金として貯めている。今後とも、町民の皆さんに、ボランティア活動の必要性、重要性を普及していきたい。」
というお話を頂きました。

来年度も、自分の活動が身近な地域や社会に役立つのだという成功体験を大事にしながら、自己有用感を育てていきたいと思っております。

令和5年3月18日（土）



昨日までの春の陽気が嘘だったかのような冬に逆戻りの天気となりましたが、本日無事に卒業式を執り行いました。

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、卒業生2名は終始マスクを外して卒業式に臨みました。今年度は、わくわく3KEN（健・賢・研）広場、西部地区公民館の展示会と中津川公民館の文化祭でのクラブ活動発表などで、地域の皆様に大変お世話になりました。地域の代表として、飯豊町副町長様をはじめとするご来賓の皆様に、制服を着た素顔の卒業生が立派に卒業証書を受け取る姿を見届けていただき本当によかったです。年度末のお忙しい中、また、雪が降る中、式後の門送りまで参列していただきましたことに、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

卒業生2名、在校生13名の少人数での卒業式でした。全員がお別れの言葉の呼びかけを担当し、合唱は「きみに会えて」を全校生で合唱し、最後に校歌を会場の皆様と斉唱しました。卒業生は1年生から6年生までの小学校生活をスライドで振り返りながらの呼びかけでした。また、卒業生が退場する際は、花のアーチ係以外の在校生は、卒業生の保護者・祖父母学級の皆様と、サプライズの紙吹雪で見送りました。アットホームな温かい雰囲気での卒業式となりました。

卒業式後の最後の帰りの会では、担任からの涙を流しながらの熱いメッセージの後、6年間で改めて振り返り、保護者の前で以下のような発表していました。「4人で入学してきて、次の学年に上がる毎にどんどん人数が減ってきて、最後は2人になったけど、いろんな人に囲まれて、心も体も成長したと思う。」「4年生から2人になって、やっぱり寂しかったけど、昨年度は2人で6年生を支えて、今年度はリーダーとしてみんなを引っ張っていくことができよかった。」

今年度も、複式学級での居場所づくり、全校での絆づくりに力を入れるとともに、地域の方々と交流を図りながら社会性を育ててきました。門送りの後、バスで下校する在校生を、逆に手を振りながら見送る2人の卒業生の姿がとても頼もしく見えました。中学校での活躍を大いに期待したいと思います。